



# 灸道湖

第184号

2021年1月



## 宇龍から望む日の出

日本海の荒波が出雲大社の雄大さを現しています。

## もくじ

令和3年「新年のご挨拶」	2
教育研修部コラム「3単現のs」	3
トピック：診療看護師	4
新人紹介：看護師になって	4
病棟紹介	5
地域看護事例検討会に参加して	6
退院調整研修に参加して	6
老人看護専門看護師としての活動紹介	7

消火避難訓練を実施しました	8
クリスマスツリーを飾りました	9
年越寒波	9
3F 病棟行事「電車に乗ろう」	10
令和2年度 成人式・お祝い会	11
開業医紹介	12
地域医療連携室だより	13
外来診療表	14



## 令和3年「新年のご挨拶」

院長 井岸 正

新年あけましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。今年もよろしくお願ひ申し上げます。また、皆様方のますますのご健勝を祈念しております。

例年のように、新年のあいさつを申し上げるところではありますが、今年はいつもの年とは勝手が違います。言うまでもなく、昨年来の新型コロナウイルス感染症が蔓延し、日本全体に、というより世界中が陰鬱な空気に覆われています。少なくとも私自身はそう感じておりますし、医療関係者であるならば多くは同様と思います。この年末年始にかけても、新型コロナウイルス感染症への対応で、休みどころではなく、激務と不安にさらされている医療従事者が日本各地に多くいます。また、昨年末から増加する感染者に、緊張しながらその推移を注視されている方も多いでしょう。

昨年を振り返りますと、例年のごとく多くの事がありました。世の中は新型コロナウイルス感染症を中心に回っていました。中国の武漢に端を発すると考えられている新型コロナウイルス感染のクラスターが2019年12月に発生したとされています。それが、瞬く間に全世界に広まりました。各国で感染が蔓延し、おびただしい数の死者を出しています。日本でも緊急事態宣言が出され、各種イベントの中止、学校の休校、オリンピックの延期、外出や県境を跨ぐ移動の自粛、いわゆる「3密」の防止など、社会に大きな影響を現在進行形で及ぼしています。日本ではこの年末年始に、流行の第3波を経験しているところであり、いまだ収束の兆しが見えません。

医療に携わる者には、より大きなインパクトがありました。新型コロナウイルス感染者の検査のための外来開設、感染者隔離と治療のための病床確保、マスクをはじめとする個人防護具の不足、都市部での医療崩壊の危機、院内感染の多発と恐怖など様々な影響を受けてきました。この年末年始は、これまでで最大の脅威に島根県でもさらされていると感じていますし、その対応に追われています。

ただ、一方的に悪い話ばかりではありません。昨年12月には立て続けにいくつかの新型コロナウイルスに対するワクチンが欧米をはじめとする各国で認可され、実際に接種が開始されています。感染の拡大当初よりワクチンの開発には何年もかかり、すぐには実用化されないとの論調もありましたが、ふたを開けてみれば1年足らずで実用化されたこととなります。ワクチン開発に向け、多く人たちの努力と熱意が注ぎ込まれたのは間違いなく、大げさではなく人類の英知の結晶であり、大いなる光明ととらえています。日本では実際に接種の開始日程は定まっていますが、時間をかけないはずとも考えています。実際にワクチン接種がある程度広まれば、新型コロナウイルス感染は恐れの対象ではなくなり、日常や病院が平常に近づくと期待していますし、それは今年の早い時期であってほしいとの希望も持っています。トンネルの出口は近いはずです。今年も新型コロナウイルス感染症から解放される年になることを願いつつ、それまで病院としての社会的責任を果たしていくとの決意を皆様と共有し、一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



## ～ 教育研修部 コラム ～

### “3単現のs”

呼吸器内科医長・教育研修部長 門脇 徹

みなさんあけましておめでとうございます。本年も当院、また教育研修部をよろしく願いいたします。今回もこの教育研修部コラムを読んでいただきありがとうございます。この原稿を書いているのは2020年11月の下旬。コロナの第3波が全国的にやっ

てきているところです。みなさんがこの「宍道湖」をお手に取ったときにはさて、どうなっているでしょうか？  
自宅で子どもたちに英語を教えることがあります。最初の躓きのひとつが表題の「3単現のs」。これは誰もぶつかる壁。自分もめんどくさいなぁと当初は思っておりました。慣れてしまえばどうということはありませんが、英語学習においては、うーん、まっひとつめの壁、でしょう。3人称単数現在形の動詞の末尾に「s」や「es」をつけるあれ、です。「he（彼）」「she（彼女）」「it（それ）」など3人称が主語にきた場合にそれを受ける一般動詞を現在形で使用する場合には「s」をつけないといけないのです。これを略して「3単現のs」と言うわけです。

例) 正: She loves you. 誤: She love you.  
これです。「s」をつけないと先生に「バツ」をつけられちゃうのです。

新年早々、なんのこっちゃ？と思う方もおられるでしょう。もちろん、英語の講義をするのが主目的ではありません。これまでは前置きです。ここからが本題。

我々医療人が患者さんにしていることは治療や看護、リハビリなど医療の提供です。血液検査や生理学的検査、画像検査なども行っています。それらが円滑に進んでいくようにコーディネートしていくことももちろん仕事の一つ。医療現場では様々なケー

スがあり、とんとん拍子にことが運ぶこともあれば、そうではなく、ともに悩みながら患者さん・ご家族がhappyになれるところを探しにいたりすることもあります。さて我々はどの目線で物事を見ていけないといけないのか？

我々医療人が主語になると「I」「we」。1人称です。動詞は変化しません。何もなくていいのです。業務に忙殺されると意外にこの視点になってしまっていることがあります。その「動詞」のことだけやっ

てしまっている。これは避けなければなりません。  
患者さんを主語にすると「he」「she」。3人称になります。そうするとあの「3単現のs」をつける必要が出てくるのです。そう、その動詞に注意を払う必要が生じてくるわけです。その動詞やそれを補う目的語には様々なものが来るでしょう。「検査を受ける」、「点滴治療を受ける」、「薬を管理する」、「人工呼吸器をつける」などなど。動詞(=一般的な何かの医療行為を指す)をそのままにせずに、動詞の変換(=その患者さんそれぞれが受ける医療行為を意味する特異的行為を指す)をしなくてはならないのです。様々な場面でそれぞれの「s」をつけていく。注意だけではなく敬意も払わなくてははいけません。

実はこれって当たり前の話なのです。でもね、やっぱり節目にはちゃんと初心にかえっていきたい。そう思って綴ってみました。コロナ禍の中の医療が続きます。我々が大事だと思うことをもっと大事にやっていきたい。そう思う、2021年年頭です。

みなさまどうかお元気にお過ごしください。教育研修部は今年も頑張ります！





こんにちは。統括診療部で診療看護師：JNP（Japanese Nurse Practitioner 以下JNP）として勤務している中村光太です。

2020年は新型コロナウイルス感染症（以下 COVID-19）の蔓延に伴い、皆様におかれましても3密を避けるために外出自粛を余儀なくされていることと思われます。

いままで健康であった方も、外出自粛で在宅時間が長くなるとどうしても運動不足になりがちです。国立長寿研究センターの報告によると、COVID-19の感染拡大に伴い、身体活動時間が3割減少したとのことです。運動量減少が続くと心身の機能が低下して「動けなくなる」こと、いわゆるフレイル（虚弱）という状態におちいる恐れがあります。筋力が低下すると転倒のリスクも増えるため、運動の維持は重要な課題となります。

厚生労働省のCOVID-19対策ホームページでは以下の運動を推奨しています。

- 人混みを避けて、一人や限られた人数で散歩する。
- 家の中や庭などでできる運動（ラジオ体操、自治体のオリジナル体操、スクワットなど）を行う。
- 家事（庭いじりや片付け、立位を保持した調理など）や農作業などで身体を動かす。
- 座っている時間を減らし、足踏みをするなど身体を動かす

疾患や個人の状況に応じてできる運動や負荷などは異なってきます。リハビリテーションを受けられている方は、担当のセラピストさんに運動内容をご相談ください。



コロナ禍においても活動を維持し、フレイルを予防していきましょう。

参考資料 <https://www.ncgg.go.jp/hospital/documents/kansenyobo.pdf>

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi\\_kaigo/kaigo\\_koureisha/yobou/index\\_00013.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/yobou/index_00013.html)

## 新 人 紹 介

### 看護師になって

2階病棟 看護師 糸原 莉奈



私は、令和2年4月より松江医療センターに入職し、2階病棟で看護師として働いています。2階病棟は、重症心身障がい児（者）と筋ジストロフィーの患者さんが入院されている病棟です。一般病棟とは異なる雰囲気、業務で初めは戸惑うこともありましたが、日々スタッフの皆さんからご指導いただきながらたくさんのことを学び、業務にも慣れてきました。

2階病棟は、人工呼吸器管理や医療的ケアの必要度が高い患者さんが多く、理学療法士、ME等と連携し、合併症の予防や安全管理を心がけています。また、療養介助専門員や児童指導員、保育士と協力し、患者さんの生活が豊かになるよう、療育活動や院内行事、学校行事にも参加していただいています。当院は松江緑が丘養護学校も隣接しているため、学生の患者さんは病棟から学校へ登校し、登校ができない患者さんには、直接教員が病室に訪問して授業を行っています。このように多職種が関わっているため連携を大切に、患者さんがより良い生活が送れるような看護を行っていきたいと思います。自分の知識や技術不足を痛感することもあります。患者さんからの感謝の言葉や笑顔がみられると、とてもやりがいを感じます。

これから働いていく中で、自分の未熟さを感じることがあると思いますが、患者さんやそのご家族に信頼してもらえそうな看護師に成長していきたいです。

# 病棟紹介

## 3階病棟

3階病棟は、重症心身障がい者病棟です。入院されている患者さんの主な疾患は脳性麻痺、精神発達遅滞、難治性てんかんなどです。患者さんへの看護として、患者さん一人ひとりの発達レベル、障害の程度に合わせた声かけ、コミュニケーションをとり、食事や排泄、入浴などの日常生活援助や療育活動を行っています。

また、患者さんを看護・介護をする中で、高齢化に伴う機能低下、特に嚥下機能の低下による誤嚥性肺炎予防、生活習

慣病予防などが課題となってきます。そのため病棟では、重症心身障がい者病棟栄養サポートチームで、日々患者さんの栄養状態の検討・評価を繰り返しながら栄養のコントロールを行っています。また、在宅で過ごされている患者さんの短期入所も受け入れており、さまざまな年代の患者さんへの看護・介護も実践しています。

療育活動としては、療養介助専門員や児童指導員、保育士と連携して、季節にちなんだ催しものを計画し、患者さんが日々を楽しく生活できるよう援助しています。



## 4階西病棟

一般病棟と結核（12床）をユニット化した病棟です。

肺がんや呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、喘息、肺炎、結核など）の方が入院されています。

治療のサポートをし、できるだけ患者さんや家族の希望に沿った生活が送れるように援助しています。

終末期を迎える患者さんでは、患者さんと家族が悔いなく最期を迎えることができるよう、患者さんと家族の想いに沿った援助を心がけています。家族と一緒に清潔ケアを行ったり、誕生日をお祝いしたり、写真撮影をしたり、看護師も同行し自宅へ外出したケースもあります。他職種と協力し、最善を尽くせるよう努力しています。

在宅看護にも力を入れており、他職種と協力して退院に向けて支援をしたり、退院前後訪問を通して在宅医療のサポートや調整を行っています。

結核の治療は、閉鎖的な環境で長期に及ぶこともある為、誕生日のお祝い等を行いアットホームな療養環境の提供を行っています。

明るく、笑顔の絶えない素敵な病棟です！



## 地域看護事例検討会に参加して

4階東病棟 看護師 新田 朋生



8月27日に地域看護事例検討会で「介護力不足により活動耐性の低下した患者の退院支援」の事例発表をしました。当日はお忙しい中、病院内・外合わせて23名と多くの方に参加していただきました。病院外の方も招いての発表が初めてであり、準備の段階から不安な事が沢山ありましたが、病棟、地域連携室、看護部の協力、指導を頂きながら今回の事例検討会を無事終えることが出来ました。

今回の事例は介護認定調査や利用できる介護サービス等を説明し、入院前から自宅での生活を考えた介入を行っていましたが、退院後に薬の飲み間違いや食事形態が入院時と変わっているなどの問題がありました。事例発表後のケアマネージャーさんからの追加情報の中で、入院中には知り得ることのできなかった情報があり、それによって退院後の問題へとつながることがあったと知りました。多職種との事例検討を行ったことによって、入院前の生活環境、生活リズム、主介護者の介護力等具体的な内容について聞き取り、退院後の生活を考えた退院支援を行っていくこと、ケアマネージャーとの情報共有の重要性を学ぶことが出来ました。

今後の退院支援では今回の事例発表での経験を活かし、地域への退院を踏まえた介入を実施していきたいです。

## 令和2年 9月30日 退院調整研修に参加して

5階病棟 看護師 島根 和也



退院調整の研修に参加し、在宅医療中心の地域包括ケアシステムについて改めて学ぶことができました。地域包括ケアシステムは在宅医療を支えるために、様々な関連職種が連携をとるといえるものです。研修の中でこれからの地域包括ケアシステムは本人の選択と本人・家族の心構えが基礎となっていくことを理解しました。これを基礎として退院調整を行っていくとともに、より良い退院支援、退院調整をおこなうために、多職種との連携を行うことは欠かせません。当院では入院前の段階から地域医療連携室が中心となり患者、家族の思いを把握し患者・家族が理想とする退院に近づけるよう多職種で患者・家族と様々な話し合いをしながらサービスの調整を行い、患者・家族が納得できる退院への取り組みがなされていると感じました。病棟でも、患者・家族が地域で安心して暮らせるようにカンファレンスを重ねながら退院支援を行えるようにしていきたいと思えます。



# 老人看護専門看護師としての活動紹介



4階西病棟 老人看護専門看護師 山根 裕子



11月7日・14日に、島根県高齢者ケア施設看護責任者連絡協議会開催の研修「高齢者ケアにおける倫理検討」の講師とファシリテーターをさせていただきました。

研修には、介護福祉士やケアマネージャー・看護助手など多職種の方が参加しており、講義のあと2事例 約2時間の事例検討を行いました。オムツ交換を嫌がる利用者の方に対してど

のように考えケアができるか？限られた人員の中で利用者の方へのケアをどのように配分してより良いケア提供をしていくか？といった内容に対し、それぞれの立場から活発に意見が飛び交いました。

私は、看護師を対象とした研修の講師をさせていただくことが多いのですが、今回の研修を通して多職種の方とふれあい、意見交換することができました。それぞれの職種の考えや大切にしておられること・考え方の違いなど、普段意識しなかった新しい視点に触れることができ、私自身もたくさんの発見と学びを得ることができました。

それぞれの職種の専門性や考えを言葉にして伝えあうこと、お互いに理解しあうことが大切なのだと改めて感じた研修でした。患者さんや利用者さんにとっての最善について多職種で検討し、より良いケアに繋げていくことができればと思います。



# 消火避難訓練を実施しました



庶務班長 星原 昌美



令和2年11月11日（水）に消火避難訓練を実施しました。消火避難訓練は消防法施行規則第3条第10項に規定されており必ず実施しなければなりません。今回も人手が少ない夜間に1階病棟倉庫から出火という想定で行いました。

火災報知器が発報するところから訓練が始まります。管内放送の後、火元まで消火器を持って消火活動を行う訓練が始まります。各階から火元までの距離がそれぞれ違うので、シナリオ通り全員そろって「はい。消火器発射！」とはいきません。それでも何とか避難誘導完了まで終えることができました。

ただ、今回は想定していたより2階病棟の模擬患者の避難完了まで時間がかかってしまいました。手順の一つが抜けているとその後の行動に影響を及ぼすことがあります。また、人それぞれ受け止め方が違うので、その後の行動や時間差や想定外の展開になることもあります。今回の訓練で訓練シナリオも皆が同じように理解できるように気を付けて作らなければならないと思いました。他に

も課題はありましたが、職員同士で共有したことを訓練の度に積み重ねて次回の訓練シナリオに生かしていきたいと思います。消火避難訓練には、なるべく当院に来てあまり年数が経っていないメンバーに参加してもらおうようにしています。初めて消火器や消火栓に触れたスタッフもいると思います。まだまだ病院には知らないことがたくさんあることを知ってもらうよい機会であると思います。今後も患者さまと職員の安全を守るために努めたいと思います。





# クリスマスツリーを飾りました

庶務班長 星原 昌美



年末年始の行事といえばクリスマスですが、当院でも毎年クリスマスツリーの飾りつけをしています。今年も令和2年12月2日(水)に正面玄関で飾りつけをしました。12月は「師走」と言われるように、みなさんも通常の生活に加えて年末年始の準備に慌しく過ぎていったことと思います。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため世間が自粛ムードにある中で、「今年のクリスマスは昨年までと同じように出来ない。」そう思う方は少なくないと思います。患者さんや職員がこのクリスマスツリーを見て少しでもクリスマスの雰囲気を感じてもらえたら幸いです。



## 年越 寒波

庶務班長 星原 昌美

年末年始に今シーズン最初の強い寒波が日本列島を襲いました。世の中が大みそかのムードに包まれている年越の令和2年12月31日(木)、当院も大雪に見舞われました。奇しくもちょうど10年前は平成23年豪雪でしたので、記憶に残っている人も多いと思います。

12月に入って年越に大寒波が来ることが、各方面の気象予報で予想されていました。事務職員は当日待機して除雪作業を行いました。また、事前に業者にも除雪作業を依頼し降雪に備えました。

当日は早朝から事務職員数名が患者さんや職員が通行できるように除雪作業を行いました。それより先に業者の方は除雪作業車を使用して主に駐車場の除雪作業を行っていました。なんとか職員の出勤時刻までには通行できるようになりましたが、除雪作業車の効果の大きさを目の当たりました。何はともあれ、患者さんや職員に怪我がなかったことは幸いでした。今シーズンはラニーニャ現象により例年より寒い冬との予報もありますので、除雪作業車を利用した除雪作業を行わなければならない状況が多いかもしれません。

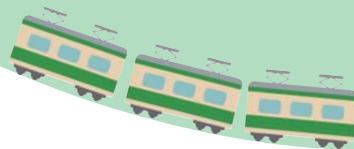


この数年暖冬が続いたため雪のことを忘れがちです。新型コロナウイルス感染症対応という新たな対応だけでなく、雪に対する備えなど今までやってきた準備も怠らず病院運営に取り組んでいきたいと思っています。



## 3 F 病棟行事 「電車に乗ろう」

療育指導室 保育士 江藤 鈴菜



10月13日（火）に院外行事の代替院内行事「電車に乗ろう」を行いました。

はじめに、手作りの電車に乗りました。この電車は、療育訓練室の中にある、1日限定の松江フォーゲルパークへと向かいます。電車の中に入ると、吊り革、中吊り広告、座席にはぬいぐるみの乗客がいます。大きな窓からは、ハシビロコウ、フクロウ、マスコットキャラクターの松丸くんが覗いて、私たちを迎えてくれます。

目的地に到着した後は、フォーゲルパークのペンギンの散歩の動画を鑑賞しました。可愛い衣装を着て、ペタペタ歩くペンギンの姿に癒されました。

ハロウィンを2週間後に控えたこの日は、参加者の皆さんと一緒に、ペンギン



にハロウィン風の衣装を着せました。紙粘土で作ったペンギンに帽子やマント、キャンディをじっくり選び、それぞれとても可愛いペンギンが完成しました。

制作の後は、一人ひとり大きなハートのアーチの前で、記念撮影をしました。

当日は、行楽日和の快晴で、実際にフォーゲルパークに行けたらきっと楽しかっただろうなと思いました。院内ではありますが、皆さん楽しんでいただけたのではないかと思います。



## 「令和2年度 成人式・お祝い会」

療育指導室 主任保育士 渡部 みどり



11月11日(水)は2階病棟2名、11月12日(木)は3階病棟2名の患者さんを対象者に「成人式・お祝い会」を開催しました。

例年ですと療育訓練室で合同で行っていますが、今年は、新型コロナウイルス感染の影響を鑑みて、各病棟のデイルームで行い、また、来賓の方々にも御列席して頂くところを、今回は御祝辞を賜り、代読する形を執らせていただきました。

このような状況下での式とはなりましたが、式は厳粛な雰囲気の中、新成人の方と、その御家族、院長をはじめ職員と執り行いました。病棟内で行うことにより、重症の新成人の方もベッド臥床で式に臨め、また、勤務している職員も一緒にお祝いすることができました。答辞では、今までお世話になった方々へ感謝の気持ち「20個のありがとう」をハートのカードに託し、落ち着いて、堂々と伝えられる姿に頼もしさを感じました。



お祝い会は、齋田小児科医長、下山脳神経内科医長、細田リハビリテーション科医長、御家族からお祝いのメッセージを頂き、温かで和やかな雰囲気の中で行うことができました。療育指導室からの贈り物として、新成人お一人お一人の赤ちゃんから現在までのお気に入りの写真を「成長フォトムービー」で視聴しました。御家族も微笑ましい姿を懐かしく目を細めて見てお

られ、また、これまでたくさんの方々へ愛情たっぷりに育ててこられたことが伝わり、会場の皆が感動し見入っていました。その後、療育指導室スタッフがお祝いの気持ちを歌と躍りで伝えました。最後に、御家庭でも見て頂けるようにフォトムービーをDVDにし、お一人お一人にプレゼントし会を終了しました。

コロナ禍の中、4名の方々が元気に当日を迎えられ、御家族にとっても思い出に残る式になったことと思います。これからも、人との出会い、繋がりを大切に、自分らしく過ごされることをお祈りします。4名の皆様、成人おめでとうございます。





# 開業医紹介コーナー

## 病病・病診連携 No.31 若槻内科医院



医療法人 若槻内科医院 院長の若槻豊です。松江市の南、山代・大庭地区で内科医院を開業しています。近年呼吸器疾患、循環器疾患、脳神経疾患などの様々な患者さんが来院されます。松江医療センターには当地区から国道432号線一本を通過して受診できる為、患者さんにも紹介しやすく助かっています。肺癌の疑いの患者さんはもちろん、重大な肺疾患の患者さんも多数お世話になっています。重い喘息の患者さんは適切な服薬指導をしていただき、その後のフォローアップをさせていただいています。



禁煙を希望される患者さんには松江医療センターの禁煙外来を受診されるように勧めています。皆さん「無事に禁煙に成功した。」と喜んで報告に来られます。又、高齢化と共に認知症の患者さんが圧倒的に増えてきていますが、もの忘れ外来では丁寧な診療をしていただき、穏やかな日常を過ごせるようにご指導いただいております。

今後も呼吸器疾患や神経難病の患者さん、認知症の患者さんの大きなよりどころとしてお世話になりたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

若槻内科医院 院長 若槻 豊

松江市山代町480-5



### 診療日・診療時間

月火木金	8:45~12:30 16:00~18:00
水土	8:45~12:30
休診日	日曜日・祝祭日



# 地域医療連携室だより 第41号



2021年1月

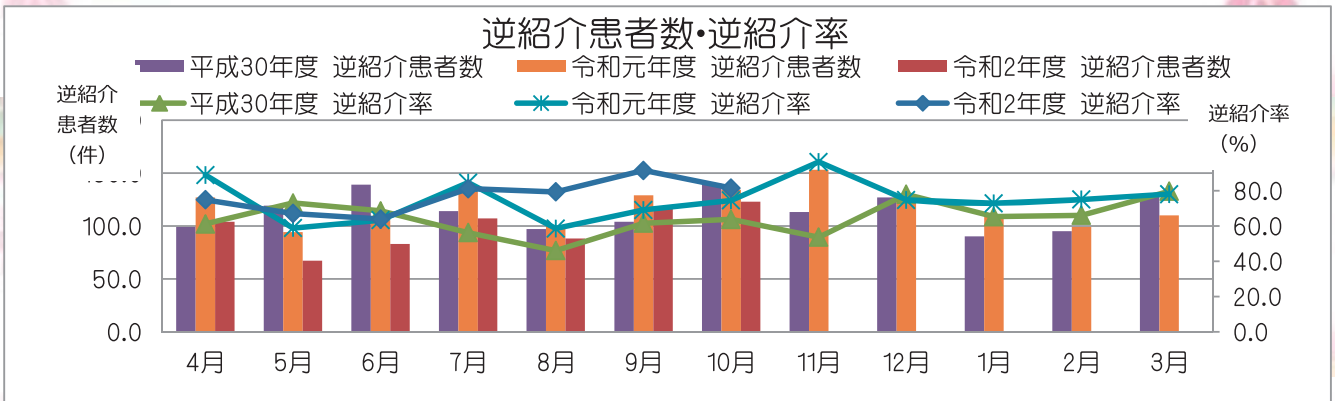
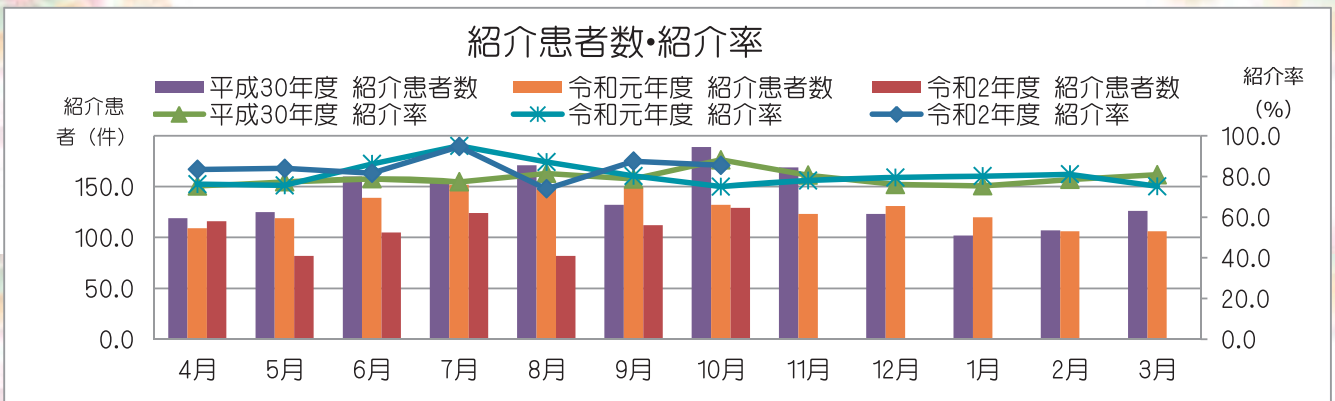


## 【時間外の対応について】

呼吸器疾患で緊急にご紹介いただく患者さまにつきましては  
24時間対応させていただいておりますので夜間・休日に関わらず  
下記にご連絡ください。

☎0852-21-6131 (代表) または 0852-24-7671 (地連)

## 1. 紹介患者数・紹介率 / 逆紹介患者数・逆紹介率の推移



## 2. 退院支援データ 毎週対象病棟で退院支援カンファレンスを実施しています

年度		R2	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
退院支援患者(人)			252	134	177	179	156	165	176					
退院先	在宅(人)		103	58	75	95	78	83	108					
	施設(人)		0	1	0	1	3	3	1					
	病院(人)		9	6	2	4	3	5	11					

※逆紹介率とは、当院から開業医さんや他の病院へ紹介させていただいた患者さんの割合です

逆紹介率 = 逆紹介患者数 ÷ 初診患者数 (休日、夜間の救急患者を除く)

# 外来診療表

お気軽にご相談下さい

令和3年1月1日現在

診療科	曜日	月	火	水	木	金	専門領域
呼吸器内科		岩本(初)	多田(初)	木村(初)	門脇(初)	池田(初)	【呼吸器内科】 井岸 正 池田 敏和 小林賀奈子 木村 雅広 門脇 徹 多田 光宏 岩本 信一 西川恵美子 坪内 佑介 【院長】呼吸器一般 【統括診療部長】呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般
		多田	小林	岩本	西川	木村	
		井岸	門脇	池田	坪内	小林	
循環器内科						生馬	【循環器内科】 生馬 勲 循環器一般
脳神経内科		中島 (完全予約制) (不定期隔週)	古和	深田	足立	交替制	【脳神経内科】 中島 健二 古和 久典 足立 芳樹 中野 俊也 細田 義人 下山 良二 深田 育代 【名誉院長】脳神経内科 (完全予約制・不定期隔週) 【副院長】脳神経内科 【臨床研究部長】脳神経内科 【診療部長】脳神経内科 脳神経内科・リハビリテーション 脳神経内科 脳神経内科
		中野	下山		細田		
呼吸器外科		荒木		目次		荒木	【呼吸器外科】 荒木 邦夫 目次 裕之 【診療部長】呼吸器外科・一般外科 呼吸器外科・一般外科
小児科	発達 専門外来	久保田 (予約)	齋田 (予約)	齋田 松村 (予約)	久保田 (予約)	齋田 (予約)	
麻酔科	予防接種		(予約)				【小児科】 齋田 泰子 久保田智香 松村 渉 【麻酔科】 西村友紀子 重症心身障害・小児神経・摂食機能障害 発達障害 麻酔科領域
	腰痛外来		(予約)	西村 (予約)			
特	肺がん検診	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	【呼吸器外科】 荒木 邦夫 目次 裕之 【診療部長】呼吸器外科・一般外科 呼吸器外科・一般外科
	睡眠時無呼吸外来				呼吸器内科 担当医(予約)		
殊	息切れ外来		呼吸器内科 池田(予約)				【小児科】 齋田 泰子 久保田智香 松村 渉 【麻酔科】 西村友紀子 重症心身障害・小児神経・摂食機能障害 発達障害 麻酔科領域
	喘息 アレルギー外来					池田 (予約)	
外	咳嗽外来					池田 (予約)	【麻酔科】 西村友紀子 麻酔科領域
	禁煙外来				毎週木曜日 呼吸器内科 担当医(予約)		
来	アスベスト外来		多田 (予約)	木村 (予約)	門脇 (予約)		診療時間 8:30~17:15 受付時間 8:30~11:30 自動再来受付 8:00~11:30 独立行政法人 松江医療センター 国立病院機構 呼吸器病センター 〒690-8556 松江市上乃木5丁目8番31号 電話 (0852) 21-6131(代) 医療連携室直通電話 (0852) 24-7671 医療連携室 F A X (0852) 24-7661
	もの忘れ外来			深田			
その他	セカンド オピニオン外来	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	

特 殊 外 来	肺がん検診	診療日：毎週月～金曜日 15:00～17:00 (要予約) 内容と特色：ヘリカルCTを使用し、小さな肺がんも発見できます。 料金5,500円
	睡眠時無呼吸外来	診療日：毎週木曜日 14:00～16:00 (要予約) 内容と特色：いびき、睡眠時無呼吸症候群の診断治療を行います。
	息切れ外来	診療日：毎週火曜日 13:00～15:00 (要予約) 内容と特色：息切れの診断と治療を行います。
	喘息 アレルギー外来	診療日：毎週金曜日 9:00～12:00 (要予約) 内容と特色：成人気管支喘息、花粉症。個人個人に合わせた予防法、日常生活指導から最新の治療まで。
	慢性咳嗽外来	診療日：毎週金曜日 9:00～12:00 (要予約) 内容と特色：3週間以上長引く咳(せき)や喉の異常感でお悩みの方。
	禁煙外来	診療日：毎週木曜日 10:00～12:00 (要予約) 内容と特色：禁煙を希望される方の検査、診断と相談に応じます。
	アスベスト外来	診療日：毎週火・水・木曜日 8:30～11:00 (要予約) 内容と特色：石綿(アスベスト)曝露による肺障害を発見するための検査と診断を行います。
	神経難病外来	診療日：毎週火・木曜日 9:00～12:00 神経難病外来
	もの忘れ外来	診療日：毎週水曜日 9:00～12:00 内容と特色：もの忘れの診断と治療を行います。
	小児科発達 専門外来	診療日：毎週月～金曜日 9:00～12:00 (要予約) 内容と特色：ことばや運動の発達の遅れ、低身長などの発育の異常、ひきつけなどの疾患に対する診断・治療療育相談を行っています。投薬、理学療法など通常治療のほかデイケアでの遊戯療法も行っています。
腰痛外来	診療日：毎週水曜日 9:00～12:00 (要予約) 内容と特色：主にぎっくり腰などの痛みの治療を行っています。薬物療法や神経ブロックなどで痛みの緩和を目指します。	
セカンド オピニオン外来	診療日：(完全予約制) 紹介状が必要です。 内容と特色：呼吸器・呼吸器外科・脳神経内科・小児科(筋ジス)の専門医(医長)が担当いたします。	